

## 腎臓内科初期臨床研修プログラム（選択科）

研修責任者 杉浦 剛

研修期間 4 週～

### I. 対象となる疾患

糸球体腎炎、間質性腎炎、急性腎障害、慢性腎臓病、水電解質異常、末期腎不全（維持透析）

### II. 一般目標（GIO ; General Instruction Objective）

- 1) 血尿や蛋白尿など検尿異常に対する病態の評価と治療の計画を立てることができる。
- 2) 急性腎障害や慢性腎臓病に伴う腎機能低下に対して、適切な検査を実施して、診断の鑑別と治療の計画を立てることができる。
- 3) 水電解質異常に対して適切な検査を実施して、病態の評価と治療の計画を立てることができる。
- 4) 維持透析患者の特有な病態を理解して、適切な管理と合併症への対処ができる。

### III. 行動目標（SBOs ; Structural Behavior Objectives）

- 1) 腎臓病に対するポイントを押さえた病歴聴取（糖尿病、高血圧、検尿異常、腎機能などの詳細な経過）や理学所見の取り方を習得する。
- 2) 腎臓病の病態に応じた、血液尿検査や画像検査を計画して、結果の解釈ができる。
- 3) 急性腎障害に対する適切な検査を実施して、病態に基づいた治療の方針を策定できる。また、必要性に応じて急性血液浄化の適応が判断できる。
- 4) 慢性腎臓病に対して、保存期治療から末期腎不全の透析導入まで病期に応じた病態の理解と管理ができる。
- 5) 維持透析患者の診療を経験して、具体的な管理方法（透析の処方、体液量の評価、血圧、血糖、貧血、電解質異常など）を理解する。

### IV. 方略（研修場所：病棟、外来、透析室、救急室、手術室など）

#### 1) 基本的な診療

入院患者の担当医として、腎臓病に関する病歴聴取や理学所見から検査計画を立案して、結果を解釈する。また、診断に基づいて診療ガイドラインなどを利用し、指導医と共に治療計画を策定できる。

#### 2) 専門的な検査、処置、手術

腎生検、透析用カテーテル留置、バスキュラーアクセス手術など、指導医の助手として参加して手技に対する理解を深める。また、腎生検に関しては、腎病理診断と所見に基づいた治療方針を指導医と共に評価できる。

#### 3) 腎臓内科的な救急対応

尿毒症、肺水腫、高カリウム血症など、緊急血液透析が考慮される状況において、指導医と共に診療へ参加して、初期対応から専門医への引き継ぎを習得する。

#### 4) 入院患者のコンサルテーション

院内で発症する急性腎障害や電解質異常、また、他の診療科で入院した維持透析患者の管理など、多様な病態に合併した腎臓病に対して、指導医と共に診療に関わり、診断と治療方針を策定する。

#### 3) 週間予定

毎週火曜日は腎臓内科カンファレンスを実施。水曜日は適宜、勉強会や抄読会を実施。月1回の腎病理カンファレンスを実施。

### V. 評価

担当患者に対する指導医との討論、カンファレンスでの症例提示および疾患に対する理解度を通じて、腎臓病の診療に対する達成度を評価する。

### VI. 学会活動

日本腎臓学会や日本透析学会の総会および地方会で演題を発表する。

### VII. 研修医への提言

日常の診療で予期しない検尿異常や腎機能低下、電解質異常に遭遇する機会は多いと考えます。また、専門領域に関わらず透析患者の診療に関与する機会も増加していると考えます。そのような状況で、どの様に病態を考えて検査や診断の鑑別を行うか、基本的な腎臓病の診療を習得して頂ければ、将来に役立つ経験になると思います。先生方の研修をお待ちしています。